

調査 80 年、見えてきた布留遺跡「物部氏の拠点」研究成果発表：

朝日新聞デジタル 2022.9.22.

<https://www.asahi.com/articles/ASQ9V6SODQ9PPOMB012.html>

インターネットにあるニュースを調べていて、9月22日朝日新聞デジタルの記事

《調査890年、見えてきた布留遺跡「物部氏の拠点」研究成果発表》の記事が目にとまった。

久しぶりに見る近畿の古代の製鉄遺跡関連の記事。

それも 古代軍事氏族「物部氏」の本拠地「天理市の布留遺跡80年の調査報告まとめ」と。

かつて 古代たたらへのルーツ・大和の国造りに大きな影響を持つ物部氏の本拠地 布留遺跡。

何度も足を運んだ大和 山野辺の道 そして天理市の布留遺跡。

私のHP「和鉄の道・Iron Road」に布留遺跡探訪のほか幾つか物部氏の足跡を訪ねて記録した記事を掲載している。

また 2012年には 当時の布留遺跡の発掘調査結果をまとめた天理参考館第65回企画展「大布留遺跡展—物部氏の拠点集落を掘る—」が開催され、開催に合わせたシンポが開かれた。

当時としては 最新の布留遺跡の展覧会。シンポジウムも合わせ開催され、聴講参加させていただき、HPにも展示・シンポ聴講記録をまとめ掲載している。

布留(ふる)遺跡は奈良盆地東部に位置する、旧石器時代から現代まで連続と続く複合遺跡です。

938(昭和13)年には、末永雅雄博士等によって布留遺跡の調査が行われましたが、古墳時代前期を代表する土師器の型式名である「布留式土器」の名称は、このとき出土した土器につけられたもの。

この布留遺跡の東側には石上(いそのかみ)神宮が鎮座。日本書紀によれば、古くから物部氏が石上神宮

を祭ってきたとされています。この石上神宮は神剣ツツノミタマを祭神とし、大量の武器がおさめられていて、王権の武器庫としての役割も担っていました。

物部氏は祭祀を司るとともに、軍事氏族としての一面も有していたことがわかります。

布留遺跡は、この物部氏が本拠を置いた集落遺跡で、これまでの調査で祭りや軍事との関わりを示す良好な資料が出土しています。また、玉工房や武器工房との関連を示す遺物や渡来人との関わりを示す遺物なども出土しています。

天理参考館 2012年 第65回企画展「大布留遺跡展—物部氏の拠点集落を掘る—」より
また、私のHPの記事のタイトルには掲載記事内容を下記のようにまとめ記している

【2022 和鉄の道・Iron Road】

ヤマト王権を支えた物部氏の本拠地「布留遺跡」再訪 Walk 2012.5.19

今まで 布留遺跡に抱いていたイメージが随分 変わりました

<https://infokkna.com/ironroad/2012htm/2012iron/12iron05.pdf>

1. 物部氏の本拠地「布留遺跡」概要
検出された遺構と出土遺物から 見えてくる遺跡の姿を知る
天理参考館 「大布留遺跡展・物部氏の拠点集落を掘る」図録の再整理
2. 随分印象が変わった私の「布留遺跡」イメージ
大布留展&関連講演会に参加して鍛冶工房だけではなく遺跡の姿も見えてきました
3. 物部氏の本拠地 天理市布留遺跡 再訪 Walk 2012.5.19.
遺構・遺物の出た場所を意識して 布留遺跡を歩く

初期ヤマト王権を支えた物部氏の本拠地「布留遺跡」再訪 Walk 2012.5.19.

天理参考館「大布留展」関連講演会 関川尚功氏「ヤマト政権の生産体制を探る」聴講

それから20年 今回の調査まとめではどんな新発見が得られたのか、興味津々で 調査報告が出るのを楽しみ。

今回の調査報告講演会の発表資料集は六一書房 (<https://www.book61.co.jp/>) が通信販売。

論文集「布留遺跡の様相」は来年5月刊行予定という。

来年5月に詳細調査報告が出るので、詳細は分かりませんが、同時に掲載されたドコモニュースには下記のようにも解説されていました。

布留遺跡は現在の天理教本部の周辺に東西約2キロ、南北約1・5キロにわたって広がる集落遺跡。1938年以降、県や天理市、埋蔵文化財天理教調査団などが35次にわたって発掘調査をし、旧石器時代から江戸時代まで様々な時代の遺物や遺構が見つかった。

これまでの調査・研究の成果を本にして刊行するため、約50人の研究者が2年前から準備を進めてきた。布留遺跡を拠点とした物部氏は、ヤマト王権の軍事面を担った氏族。

同遺跡の東端に位置する石上（いそのかみ）神宮は物部氏の氏神で、王権の武器庫でもあったとされる。同神宮には明治時代、境内の禁足地で出土した刀剣8本が伝わっており、講演会では大阪府交野市教育委員会の真鍋成史さんが、これらの刀剣が布留遺跡で作られた可能性を検討した。

布留遺跡では鍛冶（かじ）工房のほか、木や鹿の角で作られた刀装具が多数出土しており、刀剣が生産されていたのは確実だ。

真鍋さんは布留川南岸の地域では大型の砥石（といし）が出土していることに注目し、禁足地出土とされる全長1メートル前後の大型刀剣も同遺跡で製作され、メンテナンスを受けていた可能性がある」と指摘した。

「日本書紀」によると、物部氏は5世紀には天皇（大王）を補佐する大連（おおむらじ）を務めたとされる。天理大の小田木治太郎（はるたろう）教授は、布留遺跡の南に位置し、今は墳丘がほとんど失われた焼戸山（やけどやま）古墳に注目。1946年の航空写真に写った地形の痕跡から、全長約150メートルの前方後円墳だったと推定した。

すぐ近くの西乗鞍古墳（5世紀後半、全長約118メートル）がヤマト王権の大王墓に次ぐクラス古墳として注目されているが、焼戸山古墳はそれより大きく、時期も古い可能性があるという。

6世紀後半に大連を務めた物部守屋は蘇我馬子や聖徳太子と対立し、587年に滅ぼされた。

しかし物部氏は石上氏と名を変えて存続し、布留遺跡での土器の生産も平安時代前期まで続いた。埋蔵文化財天理教調査団の池田保信主任は「6世紀の布留遺跡の中核は今の天理大の東にあったようだが、本格的な調査はされていない。今後の天理市や天理大の調査に期待したい」と話した。

ドコモニュース 2022.9.22.

https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/asahi_region/region/asahi_region-ASQ9V6SODQ9PPOMB012

「調査80年、見えてきた布留遺跡「物部氏の拠点」研究成果発表」のタイトルに惹かれましたが・・・調査結果の詳細は報告書を持たねばよくわからない。物部氏の実像がさらに明確になって、どんなふうに時代感が書き換えられるのだろうか・・・興味津々である

布留遺跡そして大和王権の武器庫「石上神宮」と共に初期大和王権の一大勢力をきずいていた物部氏6世紀後半に大連を務めた物部守屋は蘇我馬子や聖徳太子と対立し、587年に滅ぼされた。

しかし物部氏は石上氏と名を変えて存続し、布留遺跡での土器の生産も平安時代前期まで続いたという。

また、日本各地には物部氏の足跡といわれる遺跡が残っており、

前方後円墳と物部氏の間を説く研究者もいる。

物部氏と石上神宮との関係は知っていましたが、物部氏は石上氏と名を変えて存続し、布留遺跡での土器の生産も平安時代前期まで続いたという。物部氏が石上氏と名を変えて存続したとの話はよく知らなかった。

平安前期といえば、9世紀末。物部氏が滅んでから約300年。

石上氏として存続できたことにも何か理由があるのだろうか・・・

古代史ブームが去って 奈良・飛鳥へ行くことも随分遠のいています。

コロナも落ち着いてきましたし、久しぶりに奈良・飛鳥そして山辺の道もあるいてみたいと。

2022.10.1. From Kobe
Mutsu Nakanishi